

＜福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ＞
(11月9日 午前10時現在)

平成23年11月9日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所

福島第一原子力発電所は全号機（1～6号機）停止しています。

1号機（停止中）

- ・ 3月12日午後3時36分頃、直下型の大きな揺れが発生し、1号機付近で大きな音があり白煙が発生しました。水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月25日午後3時37分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
現在の注水量は給水系配管から約7.8m³/時です。
- ・ 4月7日午前1時31分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 8月10日午前11時22分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 11月9日、午前5時43分、電源信頼性向上に向けた電源切替工事を実施するため、使用済燃料プール代替冷却装置を停止いたしました。同日午後4時30分頃まで停止予定です。なお、停止時温度は約22℃であり、使用済燃料プールの温度上昇については約1～2℃温度上昇見込みです。
- ・ 10月28日、放射性物質の飛散を抑制する原子炉建屋カバーの設置工事が完了しました。

2号機（停止中）

- ・ 3月15日午前6時頃に圧力抑制室付近で異音が発生、同室の圧力が低下しました。
- ・ 3月26日午前10時10分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- ・ 9月14日午後2時59分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約3m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約7.3m³/時です。
- ・ 5月31日午後5時21分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 11月9日、午前5時41分、電源信頼性向上に向けた電源切替工事を実施するため、使用済燃料プール代替冷却装置を停止いたしました。同日午後4時30分頃まで停止予定です。なお、停止時温度は約22℃であり、使用済燃料プールの温度上昇については約3℃温度上昇見込みです。
- ・ 6月28日午後8時6分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 10月28日午後6時より原子炉格納容器ガス管理システム本格運用を開始しました。
- ・ 11月6日午前11時4分、使用済燃料プールの放射性物質除去装置の運転を開始しました。

3号機（停止中）

- ・ 3月14日午前11時1分頃、1号機同様大きな音とともに白煙が発生したことから、水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月25日午後6時2分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- ・ 9月1日午後2時58分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉へ

の注水を開始しました。

現在の注水量は給水系配管から約 2.9m^3 /時、炉心スプレイ系注水配管から約 7.9m^3 /時です。

- ・ 6月30日午後7時47分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 7月14日午後8時1分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 11月9日午前9時22分、原子炉建屋開口部（ブローアウトパネル）のダストサンプリングを開始いたしました。

4号機（定期検査で停止中）

- ・ 3月15日午前6時頃、大きな音が発生し、原子炉建屋5階屋根付近に損傷を確認しました。
- ・ 7月31日午後0時44分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 8月20日午前11時34分、4号機の使用済燃料プールにおいて塩分除去装置の運転を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

5号機（定期検査で停止中）

- ・ 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- ・ 3月19日午前5時、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・ 3月20日午後2時30分、原子炉は冷温停止状態となりました。
- ・ 7月15日午後2時45分、本設の残留熱除去海水系（B系）ポンプによる残留熱除去系（B系）の運転を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

6号機（定期検査で停止中）

- ・ 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- ・ 3月19日午後10時14分、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・ 3月20日午後7時27分、原子炉は冷温停止状態となりました。
- ・ 9月15日午後2時33分、原子炉は残留熱除去系、使用済燃料プールは補機冷却系および燃料プール冷却系、各々の系統による冷却を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

その他

- ・ 6月13日午前10時頃、2、3号機スクリーンエリアに設置した循環型海水浄化装置の運転を開始しました。
- ・ 6月17日午後8時、水処理設備において滞留水の処理を開始しました。また、7月2日午後6時、水処理設備による処理水を、バッファタンクを経由して原子炉へ注水する循環注水冷却を開始しました。
- ・ 8月19日午後7時41分、セシウム吸着装置から除染装置へのラインと第二セシウム吸着装置の処理ラインの並列運転による滞留水の処理を開始しました。
- ・ 10月7日午後2時6分、伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的とした構内散水を、5、6号機滞留水浄化後の水を利用し、開始しました。
- ・ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、10月28日、1～4号機の既設護岸の前面に海側遮水壁の設置に関する工事に着手しました。
- ・ 11月6日午前11時頃、現場パトロールを実施していた協力企業作業員が蒸発濃縮装置のボイラーが停止していることを確認し、蒸発濃縮装置3B、3Cを停止しました。
現場盤において「給水タンク低水位」の警報が発生していたため、これによりボイラーが停止

したものと推定し、その後、給水タンク水位低下の原因調査を行っていましたが、ボイラー補給水移送ポンプの予備機を起動したところ、同警報がクリアしたことから、同ポンプ1台の不調と判断しました。

11月7日午後2時55分、ボイラー補給水移送ポンプの予備機を使用し、停止していたボイラーを起動、同日午後5時24分に蒸発濃縮装置3B、午後6時に蒸発濃縮装置3Cを起動しました。その後、11月8日午前2時20分、水処理設備淡水化装置内の蒸発濃縮装置用のボイラーにおいて「給水タンク低水位」の警報が発生し、補給水移送ポンプ(B)の吐出圧力が低下していることを確認したため、午前2時24分ボイラーを停止し、午前2時28分蒸発濃縮装置3B、午前2時31分蒸発濃縮装置3Cを停止しました。なお、蒸発濃縮装置が全台停止したものの、淡水化装置(逆浸透膜型)による淡水化処理および原子炉への注水は継続中です。その後、ボイラー補給水移送ポンプ(A)および(B)の吸込ストレーナを確認したところ、配管等の内部に付着していたろ過水の水垢等による詰まりが確認されたことから、それらを取り除いた上で、同日午後5時8分に蒸発濃縮装置3B、午後6時1分に蒸発濃縮装置3Cをそれぞれ再起動しました。11月9日、午前4時45分、補給水移送ポンプ(A)の給水圧力低下が確認されたことから、補給水移送ポンプ(B)へ切り替えを実施しました。その後、補給水移送ポンプ(B)についても給水圧力低下が確認されたことから、午前9時14分蒸発濃縮装置3B、3C、午前9時16分、補給水移送ポンプ(B)、午前9時21分、ボイラー(B)を停止しました。

- 11月8日午後4時23分、セシウム吸着処理水移送ポンプ(B)のモータに異音が確認されたことから、セシウム吸着装置を停止しました。その後、同ポンプ(A)へ切り替え、午後4時54分に再起動し、午後5時、定常流量(約18m³/h)に到達しました。今後、原因調査を実施予定です。なお、セシウム吸着装置の停止時間が短かったため、滞留水処理に大きな影響はありません。
- 11月9日午前10時、6号機タービン建屋内から仮設タンクへ溜まり水の移送を開始しました。

以上